NEWSLETTER

第 138 号 | 2023 年 5 月発行 | ISSN: 2436 − 0864

■ TOPICS

» 永田敬 新学長メッセージ
» 先端学術院　発足
» 2022 年度春季学位記授与式
» 第 10 回 SOKENDAI 賞
» 2023 年度春季入学式
» フレッシュマンコース 2023 年度（前学期）
» 2022 年度スプリングスクール開催
» 統合進化科学研究センター開所記念シンポジウム
» 長谷川眞理子前学長最終講義
» 令和４年度特別講義 青木 睦 准教授 最終講義「文庫蔵の調査から日本アーカイブズ建築論へ」開催
» 2022 年度総合研究大学院大学附属図書館職員研修会

■ 受賞情報
■ プレスリリース情報
■ 研究助成学生の研究紹介
■ メディア情報
■ イベント情報
■ その他

TOPICS

2023/4/1 永田敬 新学長メッセージ

2023 年 4 月 1 日、総合研究大学院大学第7代学長に、永田敬氏が就任しました。

学長メッセージ

総合研究大学院大学 SOKENDAI は，「大学共同利用機関」と呼ばれる国立研究機関を教育の場として，次世代を担う博士研究者を育成するために設立された大学です。1988 年に国内初の大学院大学として開設されて以来，基礎学術の様々な分野に約 2,400 名の博士を送り出してきました。

全国に 19 ある大学共同利用機関は，大規模な実験施設や先端的な研究設備，貴重な研究資料を備え，第一線の研究者集団を擁しています。国内外の多くの研究者がその研究設備や資料を共同で利用し，機関の研究者と緊密な共同研究を行っており，大学共同利用機関は人文学から高エネルギー物理学に至る広範な学術分野を牽引する中核拠点となっています。SOKENDAI の最大の特色は，そのような世界トップクラスの基礎研究が行われている機関を大学院教育の場としていることです。

大学を取巻く社会の姿は，この 20 年の間に大きく変化しました。ICT の劇的な進歩に伴って，地域・年齢・性別・言語などの境界さらには時空を超えて膨大な情報が行き交い，社会が向かっていく方向として仮想空間と現実空間が融合した新たな姿が提示されています。一方で現実に眼を向けると，人類社会は未曽有の課題に直面しているように見えます。誰しもが，10 年後，20 年後の人類社会の姿を想像することに困難さを感じているのではないでしょうか。

そのような状況の中で，大学が果たすべき役割とは何か。大学が培ってきた基礎学術・基礎研究の大切さは万人の認めるところですが，個々の研究者の純粋な好奇心に基づく知的活動の成果が人類全体の知として蓄積され，社会をよりよい方向に導いていくというほど，世の中のシナリオは単純ではなさそうです。そんな先の見えにくい時代だからこそ，社会はその未来を託すことのできる人材を必要としています。大学は学問の府としてその要請に応えねばなりません。

SOKENDAI は，2023 年 4 月にこれまでの教育組織・教育課程を大きく再編し，先端学術院 20 コース体制となりました。新たな教育課程は，素粒子・物質・生命・宇宙・情報・歴史・文化の広範な学術領域をカバーする 20 のコースから成り，学生は自らが専門とする学問分野の基本的な知識と教養を修得しながら，その専門に囚われることなく，主体的に学修・研究活動を行えるようにデザインされています。ディプロマ･ポリシーに掲げた「専門力」「独創性」「学際性」「国際力」「倫理性」の5つの力量は，いかなる課題に直面しても，自立した研究者として果敢に立ち向かう博士人材を念頭に置いたものです。

SOKENDAI は，長期的な視点に立って真に人類社会に資する学術のあり方を見据え，社会の知的基盤を支える学術の継承・発展や高度な研究開発の担い手となり，新たな知的価値を生み出すことができる博士人材の育成を目指して，広く社会に貢献していく所存です。

2023 年 4 月 1 日
総合研究大学院大学長
永田　敬

2023/4/1 先端学術院　発足

2023 年 4 月、総研大はこれまでの教育組織を大きく再編し，先端学術院 20 コース体制となりました。

先端学術院 20 コース	総研大が基盤とする研究機関
人類文化研究	国立民族学博物館 National Museum of Ethnology
国際日本研究	国際日本文化研究センター International Research Center for Japanese Studies
日本歴史研究	国立歴史民俗博物館 National Museum of Japanese History
日本文学研究	国文学研究資料館 National Institute of Japanese Literature
日本語言語科学	国立国語研究所 National Institute for Japanese Language and Linguistics
情報学	国立情報学研究所 NationalInstitute of Informatics
統計科学	統計数理研究所 The Institute of Statistical Mathematics
素粒子原子核	素粒子原子核研究所 Institute of Particle and Nuclear Studies
加速器科学	加速器研究施設・共通基盤研究施設 Accelerator Laboratory / Applied Research Laboratory
天文科学	国立天文台 National Astronomical Observatory
核融合科学	核融合科学研究所 National Institute for Fusion Science
宇宙科学	宇宙科学研究所 Institute of Spacec and Astronautical Science
分子科学	分子科学研究所 Institute for Molecular Science
物質構造科学	物質構造科学研究所 Institute of Materials Structure Science
総合地球環境学	総合地球環境学研究所 Research Institute for Humanity and Nature
極域科学	国立極地研究所 National Institute of Polar Research
基礎生物学	基礎生物学研究所 National Institute for Basic Biology
生理科学	生理学研究所 National Institute for Physiological Science
遺伝学	国立遺伝学研究所 National Institute of Genetics
統合進化科学	統合進化科学研究センター Research Center for Integrative Evolutionary Science

詳細は、以下のページをご参照ください。

https://www.soken.ac.jp/features/

2023/3/24 2022 年度春季学位記授与式

2023 年 3 月 24 日、学位記授与式

2023 年 3 月 24 日 (金)、葉山キャンパス講堂にて春季学位記授与式が挙行されました。式典では学長より修了生一人一人に学位記が手渡しで授与されました。その後、学長からの式辞及び修了生代表からの謝辞が述べられ、課程博士 57 名、論文博士 2 名が総研大での博士号を手に、将来への新たな一歩を踏み出しました。

» URL: https://www.soken.ac.jp/news/2022/20230327_2.html

2023/3/24 第 10 回 SOKENDAI 賞

左 : 坂本貴洋さん、右 : 森崇人さん、中央 : 長谷川眞理子学長（当時）

2023 年 3 月 24 日 (金)、学位記授与式に引き続き、第 10 回 SOKENDAI 賞受賞者 2 名の表彰が行われました。

氏名	所属（受賞時点）
森　崇人	高エネルギー加速器科学研究科 , 素粒子原子核専攻
坂本　貴洋	先導科学研究科 , 生命共生体進化学専攻

» SOKENDAI 賞は、本学の理念と目的に照らして、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程を修了し、学位を取得した修了生を表彰する賞として平成 30 年度に創設されました。

» URL: https://www.soken.ac.jp/news/2022/20230324.html

2023/4/4 2023 年度春季入学式

2023 年 4 月 4 日、入学式　永田学長式辞

2023 年 4 月 4 日 (火)、2023 年度春季入学式が葉山キャンパス講堂にて挙行されました。新型コロナウィルス感染症の拡大以降、四年ぶりに対面での開催となりました。新入生 79 名一人ひとりのお名前を読み上げ歓迎しました。

» URL: https://www.soken.ac.jp/news/2023/20230406_1.html

2023/4/4 - 4/7 フレッシュマンコース 2023 年度前学期分を対面開催

2023 年 4 月 4 日 - 7 日、フレッシュマンコース（葉山キャンパス）

2023 年度前学期フレッシュマンコース (日本語) を、4 月 4 日〜 7 日にて開催し、63 名の参加がありました。63 名中 53 名が新入生で 10 名が在学生の参加者でした。4 月 4 日〜 6 日は葉山キャンパスにおいて対面での授業を実施しました。2020 年度から 2022 年度は新型コロナ禍のため、完全オンラインで開講していましたが、今回は、2 泊 3 日の合宿形式に 1 日オンラインを組み合わせての形で開催となりました。フレッシュマンコースは、「研究者を目指すすべての人が身につけるべき技術・考えるべき問題を学ぶ」「総研大ならではの知的広がりに触れる中で、異なる分野の人とのつながりを築く」ことを目的とし、新入生を主な対象として集中講義で実施しています。

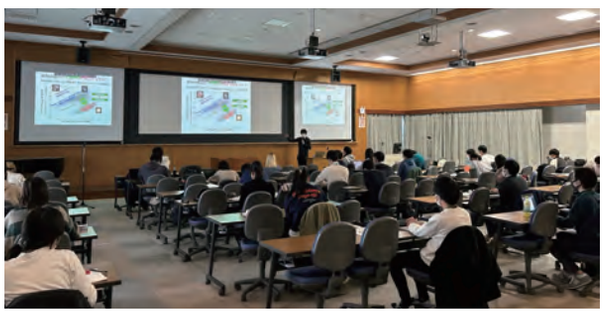
初日の「アカデミア探訪」では、総研大でおこなわれる研究活動の多様性と共通性に触れ、大学院での研究生活のイメージを描くことを目的として、コース長によるパネルディスカッションと、在学生（フレッシュマンコース学生企画委員）による研究と研究ライフ紹介が行われました。2 〜 3 日目の「研究者と社会」では、研究者が社会において望ましい役割を果たし研究者のコミュニティが健全に機能するために必要な倫理規範を洞察する能力の涵養を目的とし、講義とワークショップ形式での授業を行いました。そのうち「研究者倫理」はオンデマンド講義として実施しました。最終日の「研究者のための " 伝える技術 "」は、Zoom によるオンライン授業で、英語での成果発表を想定したライティングとプレゼンテーションの講義を行いました。

授業後のアンケートでは、90% 以上の回答者から、「FC を受講して良かった」、「オンラインではなく対面で集まったことは有意義だった」という回答がありました。個別回答の中では、「他分野の学生とたくさん交流を持てたことが大きかったです。メンバーの中で勉強会が発足したり、交流が深まってとても嬉しいです。」という回答や「他分野の方々と繋がれたので本当に良かった、研究生活を続けていく上での精神的な支えになりました。」という声もあり、好評でした。初日の講義後には、対面での懇親会も開催し、多くの参加者が交流を楽しみました。二日目朝には、参加者から自発的に参加者交流用の Slack が立ち上がるなどネットワークが形成されつつあります。

フレッシュマンコースは、コースを超えた学生が集まる数少ない機会です。次は英語で 10 月開催予定です。

【教育企画開発センター】

2023/2/27 - 3/2 2022 年度スプリングスクール開催



2022 年度スプリングスクール：国立天文台で行われた講義の様子

国立天文台・総研大天文科学専攻スプリングスクールプログラムが 2023 年 2 月 27 日（月）―3 月 2 日（木）に開催されました。これは、将来天文学研究を志す人材を育成するために、大学理工系学部 3 年または 2 年に在学する天文学研究に強い意欲を持つ学生を対象として、国立天文台の最先端研究に携わる研究者が天文学基礎の集中講義および体験学習を行うプログラムです。今年は、新型コロナウィルスの影響が収まりつつあったため、4 年ぶりに対面（ただし、講義はオンライン接続可）で開催しました。

集中講義では、国立天文台の多様な分野からの 9 名の教員により、惑星形成、遠方銀河・銀河団、銀河考古学、星形成、ブラックホール、太陽物理学、差動回転円盤、重力波、装置開発について講義が行われ、日本全国から参加した合計 37 名の学部学生に、普段の大学の講義ではあまり触れない天文学の専門的な内容を学んでもらいました。

集中講義の他、「体験学習」を実施し、太陽から遠方宇宙までの様々なスケールの天体や天文現象についての研究を、解析実習や論文輪読などを通して体験してもらいました。また、二日目の午後には、4D2U シアターと先端技術センターの施設見学が行われました。最終日の講義のあとには関井副専攻長から入試情報の説明がありました。

2022 年度スプリングスクール：参加者による記念撮影

プログラム後のアンケートでは、「同志と呼べる友達が出来た」「やはり対面に尽きる」「同じ興味を持った学生との交流が非常に刺激になった」「かけがえのない時間となった」など、対面開催に対して大変ポジティブな意見が多かったことが印象的です。また、「研究者としての進路を考える上でとても有意義な情報を得ることができた」「リモートでの参加が快適であった」「貴重な体験ができた。参加してよかった。」など、前向きな感想をたくさんいただきました。

【物理科学研究科 天文科学専攻　伊王野大介（国立天文台 TMT プロジェクト）、鹿野良平（国立天文台　JASMINE プロジェクト）、大村優美子（国立天文台　研究推進課大学院係）】

2023/2/28 統合進化科学研究センター開所記念シンポジウム

» 開催日時：2023 年 2 月 28 日 9 時 30 分～ 16 時 30 分
» 場所：葉山キャンパス共通棟 2 階講義室
» 参加人数：143 名（オンサイト 66 名 オンライン 77 名）

当日は、風が強かったですがよく晴れた 1 日でした。

朝 9 時 30 分から、まず長谷川眞理子学長（当時）の開会の挨拶、続いて、印南秀樹センター長のセンターの概要の説明から始まり、引き続き、遺伝研の太田朋子先生の基調講演「21 世紀の進化生物学」がありました。その後4部構成のプログラムへと進んでゆきました。

センターは研究部門として3部門を持っています。『多様性進化学』、『統合人間科学』、それに今年度から新たに開設された、『複雑適応系進化学』です。4部構成のプログラムには、この3部門の部門長がそれぞれの部門の研究者の紹介をし、学外の研究機関の研究者と当センターの研究者それぞれ1～2名ずつ研究の話をしていただきました。『多様性進化学研究部門』では、遺伝研の北野潤先生が、トゲウオの話など、野生生物での種分化の話を、東大三崎臨海実験所の三浦徹先生には、海の生き物の不思議な生態・生活史について、当センター所属の木下充代先生には、チョウを中心に訪花行動についてお話いただきました。『複雑適応系進化学研究部門』では愛媛大学の佐藤哲先生が複雑なシステムが抱える問題解決のための科学とはというお話を、当センター所属の飯田香穂里先生には、「知らない（無知）」ということの科学史からみた意味をお話しいただきました。また『統合人間科学研究部門』では、当センター所属の大槻久先生が人類進化での協力の進化について話されました。

それに加えて 2017 年度と 2022 年度の日本学術振興会育志賞を受賞した 2 名の若手研究者（仮屋園志帆さん・坂本貴洋さん）の発表がありました。最後に、長谷川学長（当時）が統合進化科学研究センターの前身の「生命共生体進化学専攻」の設立から、当センターへの移行に至る歴史をお話しくださいました。

幅広い分野が「進化」というキーワードで繋がっていると実感できたシンポジウムだと思います。事後のアンケート（32 名回答）によると、全員が、とても満足・満足と回答しており、このシンポジウムが盛会であったことを示しています。また同アンケート中に「今後の研究の展望を聞きたかった」というご意見があり今後の参考にしたいと思いました。

【統合進化科学研究センター　颯田葉子】

2023/3/7 長谷川眞理子前学長最終講義

長谷川眞理子学長（当時）　最終講義

3月7日、長谷川眞理子学長（当時）により、総研大退職前の最終講義が行われました。新型コロナ流行の影響でハイブリッド形式での開催となりましたが、会場には葉山の教員、研究者、大学院生、職員、修了生が集い、オンラインでは２００名あまりが参加する盛況ぶりでした。最終講義では、長谷川先生がこれまでの研究と研究者生活の様子をお話しになりました。最終講義後には学内で立食パーティーが開催され、和やかな雰囲気で盛り上がりました。

【統合進化科学研究センター】

2023/3/24 令和４年度特別講義 青木 睦 准教授 最終講義「文庫蔵の調査から日本アーカイブズ建築論へ」開催

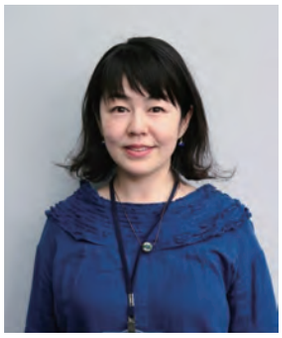
資料調査をした現地の写真を豊富に提示しながら解説する青木准教授

３月 24 日（金）、国文学研究資料館大会議室において令和４度特別講義を開催しました。対面による実施は３年ぶりで、講義は Zoom と YouTube を併用して行われました。講師の青木睦准教授は３月末で定年退職を迎えることから、今回が最終講義となりました。

講義では、国内各地の寺院や文庫に赴き、伝存する膨大な文書等を調査し、整理した過程について、現地の豊富な写真とともに、調査前の状態の正確な記録から適切な保存措置に至るまでを臨場感あふれる語り口調で解説されました。聴講の申し込みは館の内外、海外からも寄せられて 180 名を超えました。会場には青木准教授と長年にわたって親交のあった 30 余名が集まり、研究の歩みに熱心に聞き入っていました。講義終了後には青木准教授へ教員・学生から花束が贈られ、会場は大きな拍手で包まれました。

【国文学研究資料館】

2023/1/31 2022 年度総合研究大学院大学附属図書館職員研修会



講師 楯石もも子氏
（東京都江戸東京博物館 図書室）

2023 年 1 月 31 日（火）、2022 年度総合研究大学院大学附属図書館職員研修会をオンライン形式で開催しました。今年度は、葉山本部図書館の職員及び、附属図書館を構成する各基盤機関の図書館・図書室の教職員 35 名が参加しました。

会前半では、学術情報基盤事務室の貝塚室長による司会進行のもと、３つの議題で意見交換が行われました。そのなかで柳生副館長より、①大学共同利用研究教育アライアンス理事会の状況、②総研大全学契約に関する内容、③ 2022 年度より開始された Wiley 転換契約の利用状況に関する報告・説明がされています。

また各機関より提案された承合事項は、①所蔵資料画像の利用料金の無償化について、② ScienceDirect トランザクションの運用方法について、③研究データポリシー策定の状況について、④学内利用者への利用案内や情報提供について、⑤担当者の引継ぎについて、⑥ Wiley 転換契約の APC 無償化申請者への一部負担について、の６件でした。事前に各機関の意見をとりまとめて共有がされましたが、当日はさらに詳しい話し合いもありました。

そして会後半では、東京都江戸東京博物館 図書室・司書の楯石もも子氏による講演会が行われました。「レファレンスを図書館の強みに ―江戸東京博物館図書室の事例から―」と題して、専門図書館におけるレファレンスサービスについてお話いただきました。レファレンスに関する流れや、具体的な方法を学ぶと同時に、普段の図書館業務を見直す機会となりました。

近年はコロナ禍によりオンライン形式での開催でしたが、活発な議論や懇親のためにも、来年度以降の対面とオンラインでのハイブリッド開催を検討しています。今後も各基盤機関図書館・図書室との連携を深め、学生・研究者を支援していけるよう努めてまいります。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

【学術情報基盤事務室 図書係】

AWARDS

令和 5 年春の叙勲、本学関係者 3 名が受章

令和 5 年春の叙勲が発表され、長谷川眞理子前学長ら本学関係者 3 名が受章しました。

» 長谷川眞理子名誉教授、旭日中綬章受章

総合研究大学院大学前学長の長谷川眞理子名誉教授が、旭日中綬章を受章しました。旭日章は、功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた方に授与される勲章です。

長谷川眞理子名誉教授

» 中村宏樹名誉教授、山本明名誉教授、瑞宝中綬章受章

中村宏樹　総合研究大学院大学名誉教授（元分子科学研究所長、分子科学研究所名誉教授）、並びに、山本明　総合研究大学院大学名誉教授（高エネルギー加速器研究機構名誉教授）が、瑞宝中綬章を受章しました。瑞宝章は、公務などに長年にわたり従事し、成績を挙げた方に、授与される勲章です。

» URL: https://www8.cao.go.jp/shokun/hatsurei/r05haru.html

令和 5 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰』受賞

このたび、本学教員が、科学技術分野で顕著な功績があったとして、科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞しました。

科学技術分野の文部科学大臣表彰では、「科学技術賞」として「研究部門」、「理解増進部門」などいくつかの部門に分かれて表彰されます。また、「若手科学者賞」は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた若手研究者が表彰されます。

本賞を受賞した本学教員は以下のとおりです。

» 令和５年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）（本学担当教員）

受賞者氏名	所属・役職	業績
菅沼　悠介	総合研究大学院大学　准教授 / 国立極地研究所先端研究推進系　准教授	上総層群における松山 - ブリュン地磁気逆転の系統的研究
川上　浩一	総合研究大学院大学　教授 / 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所遺伝形質研究系発生遺伝学研究室　教授	脊椎動物における遺伝子組換え技術に関する研究

» 令和 5 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者 若手科学者賞（本学担当教員）

受賞者氏名	所属・役職	業績
Wu Stephen	総合研究大学院大学　准教授 / 情報・システム研究機構統計数理研究所データ科学研究系構造探索グループ　准教授	統計的機械学習によるデータ駆動型科学の新地平開拓研究
大谷 将士	総合研究大学院大学　助教 / 高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設加速器第二研究系　助教	ミューオン線型加速器開発と世界初のミューオン加速実証研究
小林 達哉	総合研究大学院大学　准教授 / 自然科学研究機構核融合科学研究所　准教授	核融合プラズマ閉じ込め遷移の機構解明と予測性改善の研究
山道 真人	総合研究大学院大学　准教授 / 情報・システム研究機構国立遺伝学研究新分野創造センター 准教授	生物進化と生態系の複雑な フィードバック機構の理論 研究

» URL: https://www.soken.ac.jp/news/2023/20230410.html

春島（倉田）のり名誉教授　令和5年第 17 回 みどりの学術賞受賞

春島（倉田）のり
名誉教授

「イネのゲノム情報基盤の確立と生殖・多様性研究」に関する功績として、春島（倉田）のり名誉教授（総合研究大学院大学名誉教授・国立遺伝学研究所名誉教授）が、第 17 回みどりの学術賞を受賞しました。

『みどりの学術賞』は、「みどり」についての国民の造詣を深めるために、国内において植物、森林、緑地、造園、自然保護等に係る研究、技術の開発その他の「みどり」に関する学術上の顕著な功績のあった個人に内閣総理大臣が授与するものです（平成 18 年 8 月 8 日閣議決定）。

遺伝学専攻修了生　Piu Banerje さん、森島奨励賞受賞

Piu Banerjee さん

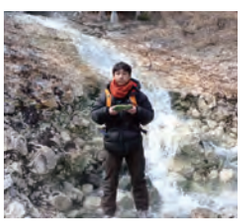
総合研究大学院大学 遺伝学専攻が独自に行っている「森島奨励賞」の選考が、2022 年度後期の学位出願者に対して行われ、神経回路構築研究室 岩里研究室に所属する Piu Banerjee さんが受賞しました。

授与式が 2023 年 3 月 14 日に行われ、花岡専攻長から賞状と研究奨励金が贈られました。

森島奨励賞は、総研大遺伝学専攻で優秀な研究成果を発表して学位を取得した学生に、その研究内容を称えるとともに今後のさらなる発展を促す目的で贈られます。

- Piu Banerjee（神経回路構築研究室 岩里研究室）
- Study of Spontaneous Activity in the Peripheral Structure of Developing Mouse Somatosensory System
- URL: https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2023/03/information_ja/ha20230315.html

遺伝学コース 宮城島進也 教授 第 31 回 (令和 5 年度) 木原記念財団学術賞


微細藻類採集と環境調査、
2023 年 2 月

共生細胞進化研究室の宮城島進也教授が第 31 回 (令和 5 年度) 木原記念財団学術賞を受賞しました。本賞は、生命科学の分野で特に優れた独創的な研究を行っている 50 歳未満の研究者に授与されるものです。

- 受賞課題 : 細胞内共生による光合成生物の成立機構
- URL: https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2023/04/information_ja/20230403.html

Press Release

2023/2/10

生態系における種を超えた協力関係は絶滅へ向かう逆説的な適応進化をもたらす　～相利系が絶滅に至る新たな脆弱性の発見～

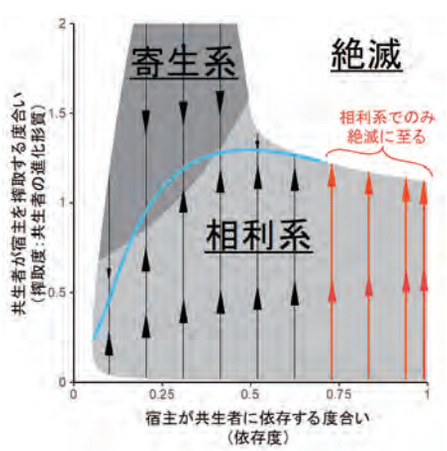
内海邑[1] , 佐藤正都[2] , 佐々木顕[3]
[1] 日本大学 医学部 医系人文・社会・情報科学分野 , [2] 産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門 合成生物工学研究グループ , [3] 総合研究大学院大学 統合進化科学研究センター

研究概要

生態系において種を超えて助け合う相利関係や一方的に搾取する寄生関係では、他種に強く依存するため、ある1種の絶滅が他種へとドミノ倒しのように波及してしまいます。そのため、相利・寄生系の保全には、きっかけとなる最初の絶滅がどのように生じ、波及するかを明らかにする必要があります。

本研究では、共生者（寄生者）と宿主の共進化を数理モデルで解析し、適応進化を通して絶滅が生じることで相利・寄生関係が破綻する条件を検討しました。その結果、寄生系では個体レベルの適応進化が集団（種・個体群）を絶滅させることはない一方、相利系ではこの逆説的な現象が起きえることがわかりました。本研究で発見された相利系特有の脆弱性は、なぜ世界に相利関係が溢れているのかという長年の問題に新たな視点を加えるとともに、保全において、従来の偶発的な絶滅とは異なる、新たなリスクの存在を示唆しています。

本研究は 2023 年 1 月号の Ecology Letters に掲載されました。



共生者の進化動態のシミュレーション。共生者による搾取度と宿主の依存度によって、寄生系（濃灰）、相利系（淡灰）、絶滅（白）に分かれ、直線の矢印にそって進化が生じる。寄生系では必ず進化的に安定な搾取度（青線）に到達する。一方、相利系では進化によって絶滅領域に飛び出してしまうことがある。

論文情報

- 掲載誌 : *Ecology Letters*
- 論文タイトル : Evolutionary double suicide in symbiotic systems
- 著者 : 内海邑（日本大学 医学部 医系人文・社会・情報科分野 , 佐藤正都（産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門 合成生物工学研究グループ）, 佐々木顕（総合研究大学院大学 先導科学研究科 / 統合進化科学研究センター）
- DOI: https://doi.org/10.1111/ele.14136
- URL: https://www.soken.ac.jp/news/2022/20230210.html

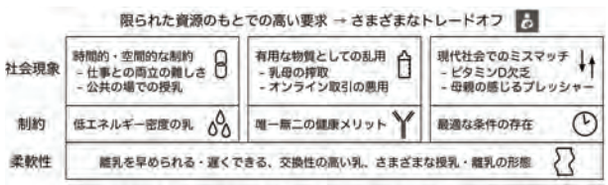
2023/3/9

授乳・離乳の社会現象を人類進化の視点から解きほぐす

蔦谷 匠 [1], 水島 希 [2]
[1] 総合研究大学院大学 , [2] 叡啓大学

研究概要

授乳・離乳は、医学や進化生物学において多くの研究がなされてきた古典的なトピックですが、哺乳類である私たちヒトは母乳によって子供を育てる営みを今も続けており、現代の環境のもとで新たな社会現象も出現しています。たとえば、公共の場での授乳の是非に関する議論、母乳のオンライン取引、母親たちが母乳育児に感じるプレッシャーなどが、そうした社会現象の例です。本研究では、授乳・離乳に関する最近の６つの社会現象をレビューして３つのカテゴリーに分類し、なぜそうした現象が生じるのかを人類進化の視点から考察しました。そして、「あちらを立てればこちらが立たず」というトレードオフの考え方を用いることで、こうした社会現象がよりよく理解でき、さらに、問題解決のためのアプローチも検討できることを示しました。この研究の成果は、私たちヒトの過去を知ることが、ヒトの未来の問題解決につながり得ることを示唆しています。



本研究で扱った現代の社会問題と、それらの生じる原因となるヒトの授乳・離乳の柔軟性と生物学的な制約についての概念図。

論文情報

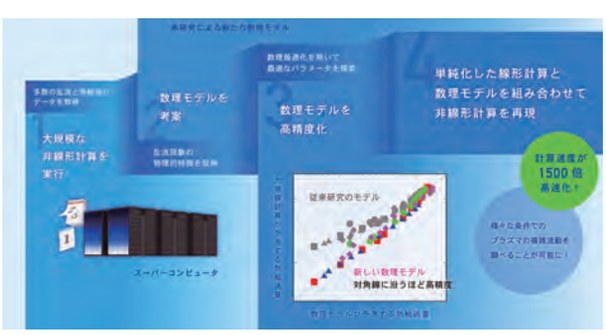
- 掲載誌 : *Yearbook of Biological Anthropology*
- 論文タイトル : Evolutionary biological perspectives on current social issues of breastfeeding and weaning
- 著者 : 蔦谷 匠（総合研究大学院大学 統合進化科学研究センター 助教、コペンハーゲン大学 Globe Institute 日本学術振興会海外特別研究員 RRA）, 水島 希（叡啓大学 ソーシャルシステムデザイン学部 准教授）
- DOI: https://doi.org/10.1002/ajpa.24710
- URL: https://www.soken.ac.jp/news/2022/20230309.html

2023/3/16

プラズマの複雑流動を単純計算で再現する ― 乱れによる熱の流れを予測する理論研究が大きく進展 ―

中山智成 [1], 仲田資季 [2,1,3], 本多充 [4], 成田絵美 [5], 沼波政倫 [2,6], 松岡清吉 [1,2]
[1] 総合研究大学院大学 , [2] 自然科学研究機構 核融合科学研究所 , [3] JST 戦略的創造研究推進事業 (さきがけ), [4] 京都大学大学院工学研究科 , [5] 量子科学技術研究開発機構 , [6] 名古屋大学大学院理学研究科

研究概要



数理モデルの構築の流れとそれを駆使した高速計算の実現を示した模式図。図中のグラフは、本研究で考案された新しい数理モデルの精度の高さと適用範囲の広さを表している。

プラズマの揺らぎや乱流による熱の流れ (熱輸送) を高精度かつ高速に計算することは、核融合炉の性能予測と制御に関わる物理メカニズムの解明において重要な課題です。

核融合科学研究所の仲田資季准教授と総合研究大学院大学博士課程大学院生の中山智成さんらの研究グループは、スーパーコンピュータを用いた多数の大規模数値計算から得られた乱流と熱輸送のデータを元に、数理最適化の手法を応用することで高精度の数理モデル＊2を構築することに成功しました。この新しい数理モデルを駆使することで、核融合プラズマの乱流と熱輸送を、単純化された小規模な数値計算のみによって予測することが可能となり、従来の大規模数値計算に比べておよそ 1500 倍の高速計算が実現されます。本研究成果は核融合プラズマの乱流研究を加速させるだけでなく、そこで開発された複雑な状態を単純計算から予測する手法は、揺らぎや乱れ、流れを伴う様々な複雑流動現象の研究にも貢献することが期待されます。

この研究成果をまとめた論文が３月16日英国ネイチャー・パブリッシング・グループの科学雑誌「Scientific Reports」オンライン版に掲載されました。

論文情報

- 掲載誌 : ***Scientific Reports***
- 論文タイトル : A simplified model to estimate nonlinear turbulent transport by linear dynamics in plasma turbulence（プラズマ乱流の線形ダイナミクスから非線形乱流輸送現象を推定する縮約モデル）
- 著者 : 中山智成（総合研究大学院大学）, 仲田資季（核融合科学研究所 , 総合研究大学院大学 , JST 戦略的創造研究推進事業 (さきがけ)), 本多充 (京都大学), 成田絵美 (量子科学技術研究開発機構), 沼波政倫（核融合科学研究所 , 名古屋大学）, 松岡清吉 (総合研究大学院大学 , 核融合科学研究所)
- DOI: https://www.nature.com/articles/s41598-023-29168-w
- URL: https://www.soken.ac.jp/news/2022/20230316.html

2023/4/6

転写が盛んなゲノム領域も「塊」を作っていた！

野崎慎 [1] *, 新海創也 [2] *, 井手聖 [1, 3] *, 東光一 [1, 3] *, 田村佐知子 [1], 島添將誠 [1, 3], 中川正基 [4], 鈴木穣 [5], 岡田康志 [2], 笹井理生 [6, 7], 大浪修一 [2], 黒川顕 [1, 3], 飯田史織 [1, 3], 前島一博 [1, 3]
[1] 遺伝学研究所ゲノムダイナミクス研究室 , [2] 理化学研究所・生命機能科学研究センター , [3] 総合研究大学院大学 , [4] 福岡工業大学 , [5] 東京大学 , [6] 名古屋大学 , [7] 京都大学
* 等しい貢献をした著者

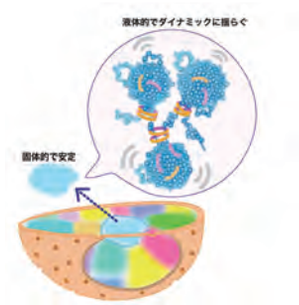
研究概要

ヒトのゲノム DNA はクロマチンの形状によって、主に「ユークロマチン」「ヘテロクロマチン」の２つの領域に分類できるとされています。これまで長い間、頻繁に遺伝情報の読み出しが行われるユークロマチンの DNA はほどけている一方、遺伝情報の読み出しが抑えられているヘテロクロマチンの DNA は凝縮して塊を形成している、と考えられてきました。

このたび、情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 野崎慎 大学院生 (現 ハーバード大研究員)、井手聖助教、前島一博教授のグループ、東光一助教、黒川顕教授のグループは、理化学研究所 新海創也 上級研究員、大浪修一チームリーダーと共同で、生きた細胞内をナノメートル (1) レベルで可視化できる超解像蛍光顕微鏡 (2) を用い、細胞の中での DNA の動きを観察・解析し、ユークロマチンの挙動を詳細に調べました。

その結果、ユークロマチンにおいても、DNA が不規則に凝縮した「塊」を形成し、そのなかで DNA が揺らいでいることを発見しました。このことは、ユークロマチンにおいては DNA がほどけている、という従来の定説を覆す発見で、不規則に凝縮した「塊」が、生きた細胞内におけるユークロマチンの基本構造であることがわかりました。また、ユークロマチンにおける DNA の塊は、放射線などによる DNA の損傷への耐性にも貢献すると考えられます。

本研究の結果によって、生命の設計図である DNA の遺伝情報がどのように維持され、どのように読み出されるのかについての理解が進むとともに、遺伝情報の保護、読み出し方の変化によって起きるさまざまな細胞の異常や関連疾患の理解につながることが期待されます。



ヌクレオソームはお互いにぺたぺたとくっついて、不規則に凝縮した「塊」を作っている（吹き出し中の 3 つの青い塊）。「塊」の中ではヌクレオソームはダイナミックに動き、液体のように振る舞うことにより DNA 上で起こる反応を促進する。一方、より大きな染色体スケールでは固体のように振る舞い、がんの原因になる長いクロマチンの絡まり・切断を防ぎ、遺伝情報の維持に貢献する。

動画 : https://youtu.be/rVcRNATKIAA

超解像蛍光顕微鏡により観察された生きた細胞の核内におけるヌクレオソームのゆらぎの動画。2 色の蛍光色素を用いることで、近接したヌクレオソーム、あるいは離れたヌクレオソームを同時に観察できる。 上段のヌクレオソームの近接したペアは動きに相関が見られる。一方、下段の離れたヌクレオソームのペアは動きに相関が見られない。

論文情報

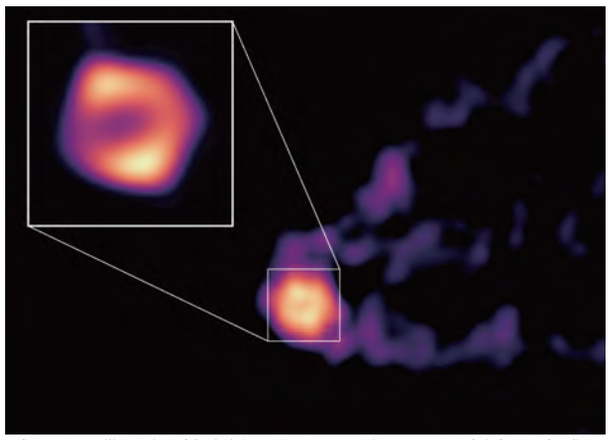
- 掲載誌 : ***Science Advances***
- 論文タイトル : Condensed but liquid-like domain organization of active chromatin regions in living human cells（ヒト生細胞のアクティブなクロマチン領域は凝集した液体様のドメインを形成する）
- 著者 : 野崎慎 *、新海創也 *、井手聖 *、東光一 *、田村佐知子、島添將誠、中川正基、鈴木穣、岡田康志、笹井理生、大浪修一、黒川顕、飯田史織、前島一博
  * 等しい貢献をした著者
- DOI: https://doi.org/10.1126/sciadv.adf1488
- URL: https://www.soken.ac.jp/news/2023/20230406.html

2023/4/26

M87 巨大ブラックホールを取り巻く降着円盤とジェットの同時撮影に初めて成功

研究概要

国立天文台、総合研究大学院大学等の研究者が参加する国際研究チームは、波長 3.5mm 帯で観測する地球規模の電波望遠鏡ネットワークを用いて、楕円銀河 M87 の中心部を詳しく観測しました。その結果、巨大ブラックホールの周囲に広がる降着円盤の撮影に初めて成功するとともに、ジェットの根元の構造をこれまでで最も高い視力で捉えました。本成果は、巨大ブラックホールに落ち込むガスから莫大な重力エネルギーが解放される現場を初めて直接的に捉えるとともに、ブラックホールジェットの駆動メカニズム解明にも弾みがつくと期待されます。 研究成果は、英国の科学雑誌『ネイチャー』に 2023 年 4 月 26 日付で掲載されました。



波長 3.5mm 帯の国際電波望遠鏡ネットワークによって得られた M87 中心部の電波画像。2018 年 4 月 14 日から 15 日にかけて、グローバルミリ波 VLBI 観測網（GMVA）にアルマ望遠鏡とグリーンランド望遠鏡が新たに参加して観測が行われました。中心部のリング状構造が巨大ブラックホールを取り巻く降着円盤で、そこにつながるジェットの様子も捉えられています。（画像クレジット：Lu et al. 2023; composition by F. Tazaki）

論文情報

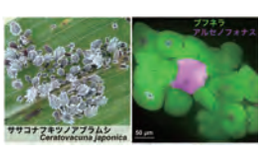
- 掲載誌 : ***Nature***
- 論文タイトル : A ring-like accretion structure in M87 connecting its black hole and jet
- URL: https://www.soken.ac.jp/news/2023/20230427.html

研究助成学生の研究紹介

SOKENDAI 研究派遣プログラム等に採択された学生の研究概要を順次本学ホームページに紹介しています。

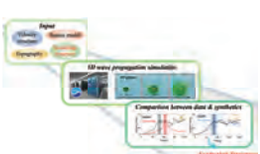
https://www.soken.ac.jp/student-research/index.html

新規掲載情報



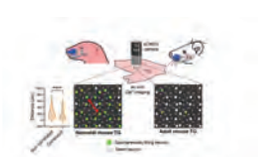
ササコナフキツノアブラムシと 2 種類の共生細菌が織りなす複合共生系を発見

- 頼本隼汰
- 基礎生物学
- 研究論文助成事業
- URL: https://www.soken.ac.jp/student-research/20230206.html



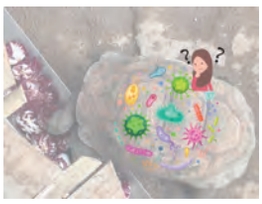
A significant update in the lunar subsurface structure model through 3D seismic wave propagation simulation

- 小野寺圭祐
- 宇宙科学
- 研究論文助成事業
- URL: https://www.soken.ac.jp/student-research/20230227.html



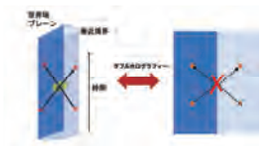
Spontaneous Activity in Whisker-Innervating Region of Neonatal Mouse Trigeminal Ganglion

- Piu Banerjee
- 基礎生物学
- 研究論文助成事業
- URL: https://www.soken.ac.jp/student-research/20230313_1.html



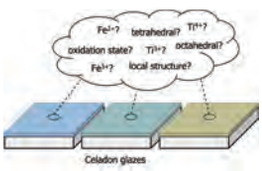
Microbial Analysis of the long-living Aldabra Giant Tortoises

- Douaa Zakaria
- 遺伝学
- SOKENDAI 研究派遣プログラム
- URL: https://www.soken.ac.jp/student-research/20230313_2.html



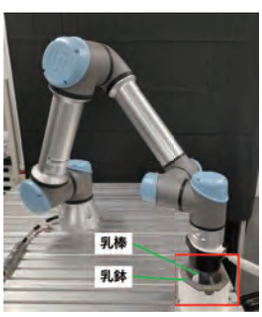
量子情報は時空の幾何学を知っているか？–微視的な情報から巨視的な空間の性質を理解する–

- 森崇人
- 素粒子原子核
- SOKENDAI 研究派遣プログラム
- URL: https://www.soken.ac.jp/student-research/20230424_1.html



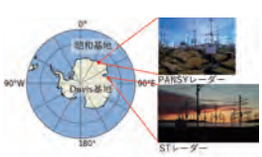
How do celadon glaze colors develop?

- RILLERA Angelo Perez
- 物質構造科学
- SOKENDAI 研究派遣プログラム
- URL: https://www.soken.ac.jp/student-research/20230424_3.html



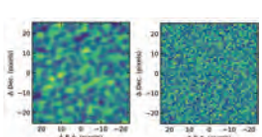
材料科学実験の自動化に向けた粉体粉砕ロボットシステムの開発

- 中島優作
- 物質構造科学
- SOKENDAI 研究派遣プログラム
- URL: https://www.soken.ac.jp/student-research/20230424_2.html



南極の昭和基地と Davis 基地における大気重力波の特性

- 吉田理人
- 極域科学
- SOKENDAI 研究派遣プログラム
- URL: https://www.soken.ac.jp/student-research/20230425_1.html

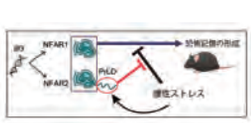


干渉計画像に存在する相関ノイズの下でのエラー解析

- 津久井崇史
- 天文科学
- 研究論文助成事業
- URL: https://www.soken.ac.jp/student-research/202300424_1.html

魚の微細な姿勢制御メカニズムとその神経回路

- 椙岡拓己
- 基礎生物学
- 研究論文助成事業
- URL: https://www.soken.ac.jp/student-research/202300424_2.html



プリオン様ドメインがストレス下でもマウスの恐怖記憶形成を可能にすることを発見

- 山下映
- 基礎生物学
- 研究論文助成事業
- URL: https://www.soken.ac.jp/student-research/20230425_2.html

メディア情報

2023/3/1 毎日新聞

- 韓敏 教授（人類文化研究コース , 国立民族学博物館）
- タイトル :「毛沢東バッジ」を研究
- URL: https://mainichi.jp/articles/20230301/ddl/k27/070/284000c

2023/3/6 京都新聞

- 斎藤玲子 准教授（人類文化研究コース , 国立民族学博物館）
- タイトル : 流氷用語
- URL: https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/984103

2023/3/15 京都新聞

- 廣瀬浩二郎 教授（人類文化研究コース , 国立民族学博物館）
- タイトル : みる＝見（けん）から験へ
- URL: https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/989284

2023/2/19 ダーウィンが来た！- NHK

- 寺井洋平 助教（統合進化学コース , 統合進化科学研究センター）
- タイトル : 解明！本当のニホンオオカミ

2023/3/6 JICA

- 長谷川眞理子 名誉教授（総研大元学長）
- タイトル : イノベーションと国の成長は若い世代の手の中に」: タンザニアの未来を担う学生に、日本の近代化を学ぶ「JICA チェア」を実施
- URL: https://www.jica.go.jp/topics/2022/20230306_01.html

2023/3/27 あいさつ GATE

- 小松龍世 宇宙科学専攻学生
- タイトル : 宇宙開発は新時代へ！月近傍ミッションの選択の幅を広げたい！
- URL: https://www.isas.jaxa.jp/home/research-portal/people/2023/0327/

2023/3/31 日経ビジネス

- 長谷川眞理子　名誉教授（総研大元学長）
- タイトル : 日本は頭を使わずとも暮らせる国か。過保護な社会がもたらす弊害
- URL: https://business.nikkei.com/atcl/NBD/19/00121/00214/

イベント情報

日程	イベント名	URL	実施機関
2023/3/9 - 2023/5/30	特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」	https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/37894	国立民族学博物館 鈴木紀 教授
2023/4/30 - 2024/2/16	分子科学研究所 体験入学	https://www.ims.ac.jp/education/event.html	分子科学研究所 分子科学コース
2023/5/13	統合進化科学コース説明会・講演会	https://www.soken.ac.jp/event/2023/20230513.html	統合進化科学研究センター 統合進化科学コース
2023/5/20	総合研究大学院大学 先端学術院 天文科学コース 入試ガイダンス 2023	https://guas-astronomy.jp/Applicants/nyusi-guidance.html	国立天文台 天文科学コース
2023/5/20	大学院一日体験会	https://www.nig.ac.jp/nig-daigakuin/nig-daigakuin2023/	国立遺伝学研究所 遺伝学コース
2023/6/2	【オンライン開催】第 136 回分子科学フォーラム 講演者：竹内 昌治（東京大学 教授）	https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2023/03/02_5804.html	分子科学研究所
2023/7/6 - 2023/8/8	コレクション展示「ハンターのみた地球」	https://guas-astronomy.jp/ss.html	国立民族学博物館 池谷和信 教授
2023/8/1 - 2023/9/1	2023 年度国立天文台・総合研究大学院大学 サマーステューデントプログラム（夏の体験研究） ※ 5 月下旬募集開始予定	https://guas-astronomy.jp/ss.html	国立天文台 天文科学コース

その他

■第 63 次南極地域観測隊 (越冬隊) 隊員からのメッセージ

レポート作成 : 馬場 健太郎 (総合研究大学院大学事務局職員、庶務・情報発信)
掲載協力 : 国立極地研究所

こんにちは、南極地域観測隊に参加していた事務局職員の馬場です。我々 63 次越冬隊は、64 次夏隊とともに 3 月 22 日夜に帰国しました。今回の寄稿では、2 月 1 日の越冬交代式から帰国までの様子をお伝えします。

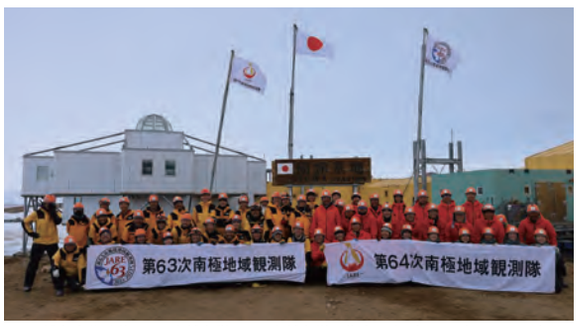
2 月 1 日。63 次越冬隊が 62 次越冬隊から昭和基地の維持・管理を引き継いでからちょうど 1 年が経ち、今度は 63 次越冬隊から 64 次越冬隊へとバトンを受け渡す日がやってきました。

日付が変わるタイミングで、発電棟にある制御室では発電機のリセット式が行われていました。これは、63 次隊が運用してきた発電機の運転時間数のカウンターをリセットし、64 次隊に運用を引き継ぐもの。昭和基地での停電の発生は隊員の生死にも関わりかねませんが、63 次隊ではそのような事態に陥ることはなく、1 年間無停電で乗り切ることができました。これも発電機のエンジンや制御を担当する隊員のおかげです。

越冬交代式は、64 次隊の伊村隊長と「しらせ」の斎藤副長、そして 64 次夏隊員が立ち会うなか、午前 9 時過ぎから 19 広場で執り行われました。私は式の前半の司会・進行を務め、63 次越冬隊と 64 次越冬隊の越冬交代の成立を宣言して、司会・進行を 64 次越冬隊庶務担当の白野隊員へとバトンタッチしました。この越冬交代式をもって、63 次越冬隊から 64 次越冬隊へ、昭和基地の維持・管理と観測・設営業務の一切が引き継がれたことになります。64 次先遣隊とともに 11 月から南極大陸無陸部にあるドームふじ観測拠点Ⅱに行っていた 63 次越冬隊 6 名も前日に昭和基地に帰還したため、この日の越冬交代式には昭和基地で 1 年間を一緒に過ごしてきた 63 次越冬隊の 32 名全員が参加することができました。

式の終了後は、64 次越冬隊との別れを惜しむ時間もそこそこに 19 広場からヘリポートへ移動し、「しらせ」から迎えにきたヘリコプターで昭和基地を後にしました。「しらせ」では波江野艦長のほか、大勢の乗組員が握手やハイタッチで出迎えてくれて、1 年間にわたる昭和基地での越冬生活の労を労ってくれました。

越冬交代式の様子（2023 年 2 月 1 日）



越冬交代式後、63 次越冬隊と 64 次越冬隊の集合写真（2023 年 2 月 1 日）

我々を収容した「しらせ」は一路日本に向けて帰国の途に着くかというと、そうではありません。引き継ぎなどのため、越冬交代後も昭和基地に残っている一部の隊員を収容する最終便が運行されるまでの約 2 週間、「しらせ」はリュツォ・ホルム湾にとどまり、昭和基地から 20km ほど離れたラングホブデ氷河沖での海洋観測を行っていました。

南極大陸を覆っている氷床が融解する原因のひとつとして指摘されているのが、海にせり出した棚氷の底面を暖かい海水がとかす「底面融解」です。そのメカニズムを解明するため、海氷が流れ出す場所（氷河）の沖合で、海水を採取して水温や塩分などを測る CTD 観測や係留系による観測のほかに、64 次隊では MONACA と名付けた AUV（自律型水中ロボット）による探査や海底地形測量、ドローンを使ったエアロゾル観測など、様々な海洋観測が行われました。

実は、1 月下旬に「しらせ」が昭和基地沖を離岸して以降、昭和基地のある東オングル島と南極大陸を隔てるオングル海氷の海氷が流出し、徐々に開放水面が広がってきました。一夜にして昭和基地の近くに氷山が流れ着き、朝、食堂の窓から突如現れた氷山を見て驚いたことがありました。ラングホブデ氷河沖の海洋観測の途中、南極大陸沿岸部のルート工作で立てた旗竿が刺さった海氷が流されていくのを見て、64 次越冬隊が来シーズンに東オングル島から南極大陸に渡ったり、大陸沿岸部で活動したりする際に支障が生じないか懸念も持ちましたが、その一方で、開放水面の拡大は「しらせ」による海底地形測量や MONACA による海洋観測には好都合だったのかもしれません。

ドローンで撮影したオングル海峡の開放水面の様子。
右奥がラングホブデ氷河。（2023 年 1 月 28 日）

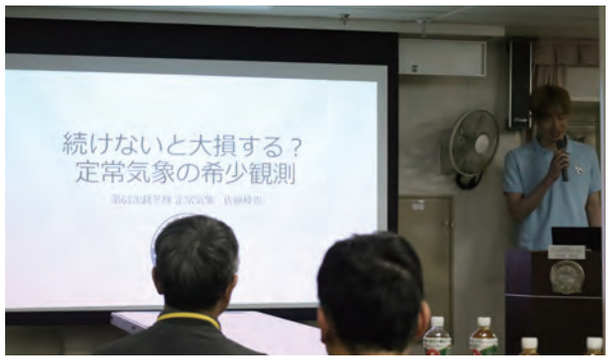
トッテン氷河沖での CTD 観測（2023 年 2 月 4 日）

リュツォ・ホルム湾内の海氷上では、アデリーペンギンやコウテイペンギン、アザラシなどの姿を見ることができました。

アデリーペンギン（2023 年 2 月 5 日）

アザラシ（2023 年 2 月 14 日）

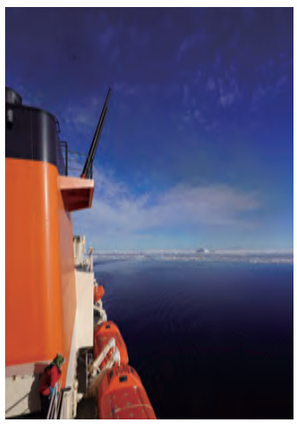
2 月 15 日、昭和基地に最後まで残留していた 64 次夏隊員を最終便で収容した「しらせ」は北上を開始し、リュツォ・ホルム湾の流氷域を離脱しました。次の目的地であるトッテン氷河沖に向けて東進する「しらせ」では、5 日連続で時刻帯変更が行われました。1 日 1 時間ずつ短くなり（毎日 23 時に 1 時間ずつ時計の針を進める）、起床時間が 1 時間ずつ早くなっていくため、次第に朝起きるのがつらくなってきます。そんな中、トッテン氷河沖に到着するまで海洋観測がひと段落した船内では「南極大学／しらせアカデミー」として、63 次越冬隊員と 64 次夏隊員による観測・設営作業等に関する報告会が開かれ、多数の「しらせ」乗組員や観測隊員が耳を傾けていました。これは、トッテン氷河沖到着後も夜学として続けられました。



南極大学の様子（2023 年 2 月 21 日）

2 月 25 日にトッテン氷河沖に到着した「しらせ」は、再び約 2 週間の海洋観測を行った後、3 月 11 日にトッテン氷河沖の流氷域を離脱しました。これで流氷や氷山が浮かぶ南極らしい風景とはいよいよ本当にお別れです。恐らく再び南極に来ることは無いだろうと思うと、バタバタと昭和基地を後にした時よりも感慨深いものがありました。

クレーンで釣ったゴンドラから海氷を採取している様子（2023 年 3 月 4 日）



流氷域を離脱した「しらせ」（2023 年 3 月 11 日）

64 次の往路では暴風圏を通過する際に相当揺れたと聞き、復路ではどの程度揺れるか心配しましたが、幸いなことにあまり揺れずに済みました。3 月 18 日に船内で貸与装備品の回収作業などを行い、3 月 19 日に「しらせ」はオーストラリアのフリーマントル沖合に投錨し、仮泊しました。午前中に遠くに船が航行しているのが見えて、少し文明圏に近づいてきたことを感じましたが、午後になって陸の緑が見え、携帯電話の電波が届くようになり、1 年 4 ヶ月ぶりに文明圏に帰ってきたことを実感しました。

3 月 20 日、「しらせ」はフリーマントルに入港しました。この日は退艦のセレモニーが飛行甲板で行われたほか、日本入国時に必要なオンライン上の検疫事前手続きなどを船内で行い、終了した者から一時上陸の許可が与えられました。庶務隊員は翌日の下船を控えて船内での残務があり、他の隊員に比べてゆっくり上陸というわけにはいきませんでしたが、大学時代の先輩がオーストラリアに迎えに来てくれており、市内のレストランで夕食を共にすることができて、感激しました。

3 月 21 日夜、「しらせ」を下船した観測隊員はチャーターバスで空港に向かい、マレーシアのクアラルンプール経由で 3 月 22 日の夜に羽田空港に到着しました。到着が深夜だったこともあり、極地研が手配した空港近くのホテルで 1 泊して、約 500 日（出国前の隔離期間を含めれば、プラス 2 週間）に及ぶ南極出張の幕が閉じました。

長期間にわたり総研大の業務を離れてこのように南極観測隊に参加する機会を与えてくださった本学の執行部と送り出してくれた同僚の皆さんにこの場を借りて感謝申し上げるとともに、後輩たちにも（できれば若いうちに）基盤機関などで様々な経験を積むチャンスがあることを願っています。

また、最後になりましたが、拙い文章をお読み頂いた総研大ニューズレター／ホームページの読者の皆様にお礼を申し上げます。

久しぶりに帰ってきた文明圏（2023 年 3 月 19 日）

退艦セレモニー（2023 年 3 月 20 日）

フリーマントルに入港した「しらせ」（2023 年 3 月 20 日）

■お知らせ

2023/4/1 総研大 Web サイトリニューアル

2023 年 4 月 1 日より、本学の Web サイトをリニューアルしました。是非ご覧ください。

» URL: https://www.soken.ac.jp

2023/3/17 SOKENDAI TALKS 第 3 回

本学の研究者と各界でご活躍される方々との対談シリーズ、SOKENDAI TALKS の第 3 回目を公開しました。今回は、人間文化研究機構長の木部暢子教授をお招きしました。

是非ご覧ください。

» URL: https://www.soken.ac.jp/news/2022/20230317.html

編集後記

暖かい春の日差しに、葉山キャンパス内の桜も満開の中、３月には学位記授与式、４月には入学式が行われました。いつもは静かな葉山本部に多くの学生及び教員の方が来校し、賑やかな風景が感慨深かく感じられました。修了生も、新入生もそれぞれの新たなスタートが希望溢れる充実したものとなりますよう祈ってやみません。

(広報社会連携係 TS)

総研大基金によるご支援について

本学では、経済的に困難を抱える学生の支援等を推進するため、総研大基金を設立しています。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。

【詳細はこちら】

https://www.soken.ac.jp/donation/

広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大学生が筆頭著者として研究論文を出版する際など、プレスリリースを行う場合は、総研大と基盤機関との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

また、学生や教員のメディア出演や受賞・表彰、地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動といった社会連携・貢献活動など、様々な活動について、ニューズレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、是非情報をお寄せください。

なお、研究論文を投稿する場合や、メディア等へ出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただき、総研大の知名度向上へご協力ください。

2023 年 5 月発行
編集・発行
国立大学法人　総合研究大学院大学
総合企画課広報社会連携係
神奈川県三浦郡葉山町 湘南国際村
TEL: 046-858-1629
Email: kouhou1@ml.soken.ac.jp
© 2023 SOKENDAI